



World Karate Federation General Secretary Office News Letter vol.60

Edition July 17th, 2018

YOG予選トーナメント

■ YOG予選トーナメント

6月29日(金)と30日(土)の2日間、クオアチア・ウマグにおいて、本年10月にブエノスアイレスで開催されるユースオリンピック競技大会(以下YOG)の予選トーナメントを開催しました。

YOGに初採用された空手は組手のみ男女各3階級、各階級8名の選手が出場できます。選手選考は4段階に分かれ、第1段階では6月1日に発表されたYOGスタンディング(オリンピック用のランキング)により、各階級2名が選考されました。

今大会は第2・3段階にあたり、まず初日の競技で優勝・準優勝した選手がYOG出場権を獲得(第2段階)。残りの選手で2日目にもう一度トーナメントを行ない、優勝・準優勝した者がYOGの出場権を得るというものでした(第3段階)。

■ 関係者絶賛 日本は6枠獲得

日本は第1段階で3名が出場権を獲得し、予選トーナメントでは残る3階級に出場、全員が素晴らしい闘いをし、それぞれ優勝・準優勝に輝きました。全6種目においてYOG出場権を獲得したのは日本だけです。

YOG予選トーナメント終了後、開催国枠やスタンディングの順位等に基づき、すべてのYOG出場選手が決定しました。現在、各国オリンピック委員会と出場手続きの最終確認中です。

YOGトーナメントにおける日本人選手の健闘には、WKF役員・審判員から称賛の声が上がっていました。彼らを含め出場権を獲得した6名が、



YOG予選トーナメントを勝ち抜き、メダルを手にする3選手(中央)。左から中村虎太郎選手、崎山慶成選手、澤島さくら選手。

空手史上初のオリンピックとして、ブエノスアイレスにおいても大活躍することを期待します。

■ 東京オリンピック選考が始まる

いよいよ東京オリンピック選考期間に入りました。7月13日(金)からヨルダン・アンマンで開催された第15回アジアシニア空手道選手権大会は、オリンピック・スタンディングにポイントが計上される最初の大会となります。

東京オリンピック予選に直接は関係しないものの、7月19日(木)からFISU世界大学空手道選手権大会、8月にはアジア競技大会と重要な国際大会が目白押しです。いずれの大会も、その成功が2024年オリンピック採用への布石となることは間違いありません。

世界空手連盟 事務総長

奈藏 稔久

世界空手連盟 事務総長事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-8-10 セイコー虎ノ門ビル7階
電話 03-3519-8520 FAX 03-3519-8521 wkf@wgf-gs.jp